



左から稲次、須藤、吉村の各氏

**須藤 文雄氏**

(一社)日本ハンドバッグ協会会長/㈱駒屋社長

**吉村 圭司氏**

(NPO)法人日本皮革技術協会 副理事長

**稲次 俊敬氏**

(NPO)法人日本皮革技術協会 副理事長

革財布メーカーの技術を生かし、  
B to Cでパーソナル需要も取り込む

革小物のルーツは  
内職の煙草入れ

**吉村** いつもこの座談会をご愛読いただきありがとうございます。

今回は一般社団法人日本ハンドバッグ協会会長で、㈱駒屋社長でもある須藤文雄様にご登場いただきました。まず、団体の組織・活動などからお聞かせください。

**須藤** 日本ハンドバッグ協会は、日本ハンドバッグ工業会連合会と日本ハンドバッグ卸連合会を束ねた組織で、会員は246社です。

扱ひ品目はハンドバッグと財布などの革小物です。製造業ではバッグと革小物の両方を扱って

るところはほとんどありません。卸では両方扱っているところは少なくないです。

**吉村** 駒屋さんは財布・革小物のメーカーですが、財布・革小物はいづころからの産業なのですか。

**須藤** もともと内職の煙草入れからスタートした業界なのです。明治になって刀を捨てて手に職をつけなくてはいけないということとで始まったのですね。

また、大正・昭和の時代は、皆さんは海外の製品を見たりして、独学で技術を身に付けて来たのです。

業界が大きく伸びたのは東京

タワーができた1958年(昭和33年)頃ですね。数量が増えて、産業としての形も整ってきました。まだ量販店というものがなかった時代です。

1988年あたりから、中国の深圳の経済特区で作る日本のメーカーが増えてきました。当社も合併工場を作りました(稼働中)。

その頃から皆さんは視察団を組んで、中国や東南アジアの産地を回ったんですね。

当時、ジエト口の方から聞いたのが、「今後、生産地は『南下西進』する」という言葉でした。最終的には、『西』はバングラデシュでしよう。流石です。先見性がありました。



吉村氏



須藤社長

## 百貨店の平場が消え、商品は小型化

**吉村** いまハンドバッグ協会は、どんな状況ですか？

**須藤** 売上げは新型コロナの影響で3月から始まった百貨店、ショッピングセンターの休業があり、向かい風が非常に強いですね。通販などをやっているところと差が出ているようです。

現在は、多くの会社が雇用調整助成金を受けて凌いでいるところではないかと思えます。

取引では6月ごろからオンライン展示会の動きが出てきました。もうすぐ11月の展示会シーズンですが、そこで個展開催がどうなっていくのか関心を持って見えます。

販売では、ECが増えました。この辺の詳細な数字はまだつかめていないですが、その辺を頑張っているところでも前年比90%取れば万々歳といったところでしょう。材料関係では金具の業者、メッキ業界に廃業が多いですね。

そのために、小物の口金も高騰し、極端に小ロット化しています。

小ロット化は革も同様です。オリジナルの色などは、最近では10枚とか、もっと少なくてもやることも出てきています。

**吉村** 売場の状況はどうでしょうか。

**須藤** 目につくのは売場の減少ですね。

百貨店ではもうバッグ・革小物の平場がなくなり、現在はブランド単位になりました。

そのほか百貨店オリジナルの廃止、革小物コーナーの縮小・廃止ですね。

このためにB to Cルートが模索されていますが、デジタル技術の活用とかの壁もあって小規模なところは対応ができません。

**吉村** 財布・革小物は全体に小型化になっているようですね。

**須藤** そうです。【軽い・薄い・小さく】ものが好まれています。

バッグも小型化しています。財布は小型化だけでなく、形状が多様化しています。

小銭入れは不要で、お札とカー

ドだけでいいとか。またカードにもいろんなサイズがあります。

これからは、スポーツクラブに行く、山登りするとか行動シーンに合わせた商品づくりが大事になるでしょうね。

**稲次** 革素材も小ロットなのですね？

**須藤** 先ほど10枚でもやってくれると言いましたが、受注はさらに細かくなっています。

海外物の革では、72時間以内に1枚から届けるサービスが出てきています。

色は90色もあります。多品種少量となると、必然的にそういう素材を選ぶようになりま

**稲次** 姫路に30〜40色そろえて、1枚からでも売るといったタンナーさんがいます。

そこは日本エコレザーの認証を積極的に取られ、仕上げではスムースと型押し両方そろえていきます。ちよっと割高なんです。ECなので小口のお客さんは買いやすいようです。



スマホケース。中は革製で、カードなどが入る



NHKで紹介された

そこは、コロナ禍で年間売上げが伸びない中、E.C.が会社にとって大きな支えとなっていると聞いています。

**須藤** そういう会社が出てくると、やらないところと差がつかまずね。

### メーカーの技術を生かしたスマホカバーがヒット

**吉村** 駒屋さんの創業はいつですか？

**須藤** 1950年です。ちょうど今年で70年ですね。もとは墨田区本所で創業したのです。

1992年には当社も中国に合併会社を作り、製造拠点をこちらの方に移しました。

ところが、2008年に中国産の段ボール入り餃子が話題騒然になった。これがきっかけで、「日本製が欲しい」と言ってお客様が増えました。それで当社も8年前に新潟に小さな工場を作りました。

工場は技術の伝承がないと途絶えてしまっんですよ。

工場には10本の指と多少の設備

がいる。さらに市販されていない道具があったりする。お金だけ出せばメーカーができるかっていうと、そうではないんですよ。

当社は、幸いと言っては失礼ですが、65歳以上の社員が1/3いるんですよ。高齢化です。でもそういう人たちはね、リタイヤせず、死ぬまでやらせてくださいって言ってくるのです。

技術は長年の蓄積。若い人を入れても3、4年で身につくものじゃない。

ハンドバッグ協会は卸業者と製造業者が一緒に加盟している団体なのですが、卸団体から製造の皆さんへの注文は減少傾向にあります。

コストメリットを出したい卸の皆さんは独自で海外から商品調達します。ですから国内の製造業者も、ものを作ることに加えて販売機能も磨かなければ生き延びていく道はないのです。

方向はB to Cでしょうね。

**吉村** そのB to Cで駒屋さんはおもしろいことを立ち上げておられますね。

スマホのケースが人気になって

いるそうですね。

**須藤** スマホのケースは、革プラスアルファで何か作れないかと、思いついたものです。

本体が革ケースで、PUでエナメルを加工したカバーに、お好みの写真・ロゴ・文字などの画像を自在にプリントできます。

これは3年前からやっているオリジナル企画で、最近、特に注目されるようになりました。

これからスマホのほかにカードケースやノートカバー、キーケース、名刺入れにも展開していきたいと思っています。

お見せしましょうか。これです(写真上)。

**吉村** これは、何かの同好会ですか？

**須藤** 和竿(日本の釣竿)組合のメンバーの方たちです。腕前を競って番付表もつくりました。

毎日使うスマホにこういう写真が入ると、好きな人は堪らないみたいですね。

その他にもあります。

これがうちの会社の野球チーム



稲次氏

のメンバーの集合写真を用いたものです。

また、これは孫が描いたイラスト。書道の入選作品とかもありません。

箱根駅伝のメンバーとかも作ったら関係者は喜ぶでしょうね。

**稲次** 相撲などの番付とか大会だったら毎年内容が変わる。需要がありますよ。

あと、日本の百名城、百名山、豪華列車・S.Lのシリーズとか…。

**須藤** 家族の年間行事とかもいいんですよ。初詣、花見、運動会、キャンプとか。また、趣味など、題材は無限と考えています。

遠方では、北海道の漁師の方に

たくさんのお漁旗を掲げた新造船の出航風景の写真を送っていただきました。

プリントは外注だと細かい対応に時間がかかるので、結局、自社でやるようになってしまいました。

プレゼント需要のほうが多いのではないかと期待しています。

現在は、当社のウェブページでオーダーができるところまで来ています。

注意しているのは、好きな芸能人写真とかを希望される場合は、肖像権の問題があるので、全部お断りしています。

ポイントはウェブページの更新と顧客情報の管理ですね。

これからB to Bでも記念品を作りたいんだっていうようなこと

も出てくるかもしれません。

**吉村** いいアイデアですね。

**須藤** 実は先週、NHKが「コロナで困窮している会社が始めた新事業」ということで、「首都圏ネットワーク」や全国放送の「ニュース7」などで紹介されました。

**吉村** 反響はどうですか？

**須藤** 2日間で視聴者からのアクセス数が2000件ほどありました。手応えはまあまあですね。

その番組を見て、是非ともそのようなものづくりがしたくて入社したい、という人の面接がこれからあります(笑)。





NHKで紹介された駒屋の新事業

**稲次** このスマホのケースはいくらでしようか？

**須藤** 上代1万2000円(税別)です。オンラインワンですから。

**稲次** 安いのでは？

**須藤** そういふ人が全体の2割。是非とも申し込んで下さい。日本エコレザーのマークが入った名刺入れを作りますから。

### さり気なく安心・安全なエコレザーをPR

**稲次** 日本エコレザーの紹介をさせてください。

いま、認定されている革と製品とで900件ぐらいです。

**須藤** 順調に増えているんですね。

**稲次** 製品メーカーの方から要望があつてタンナーが動くという形が多くなつてきてますね。

「この革で」と言われて試験するんですけど、なかなか合格しなく

て。それから革を作っていたのは商機を逃してしまふ。実際の商売に繋がらないとみなさん真剣に考えないですね。

**吉村** 日本エコレザー認定制度が出来てから10年が経過したので、これから時代に合った価値観も盛り込み、認定のコストも押さえて取りやすい基準を作っていきます。

**須藤** 日本エコレザーというのは「プラス・エコレザー」という感覚のほうがいいのかもしれないん。

つまり、これエコレザーの製品ですよ、だから買ってくださいっていうわけにはなかなかいかない。

軽い革素材ができましたよ、しかも環境と人に優しい日本エコレザーという革なんですとか。

**稲次** そうですね。

エコレザーを前面に出して売れるのはベビー用品や寝具、医療・介護用品ぐらい。お孫さんに買ってあげる商品に、「安全・安心」の文句が入ると喜ばれそうです。ただ、そういう商品は限られています。

**須藤** SDGs(持続可能な達成目標)みたいな考え方も必要でしょうね。

**吉村** それは先ほどお話しした「新・日本エコレザー(仮称)」で盛り込んでいかなければいけないと思つています。

もちろん工場を直接監査することも取り入れたいですね。

### 日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている  
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値を満たしている
- ⑤適切に管理された工場で作られた革  
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



※これまでの「日本エコレザー対談」は、[www.japan-ecoleather.jp](http://www.japan-ecoleather.jp)のトップページの「業界情報」の項でご覧いただけます。